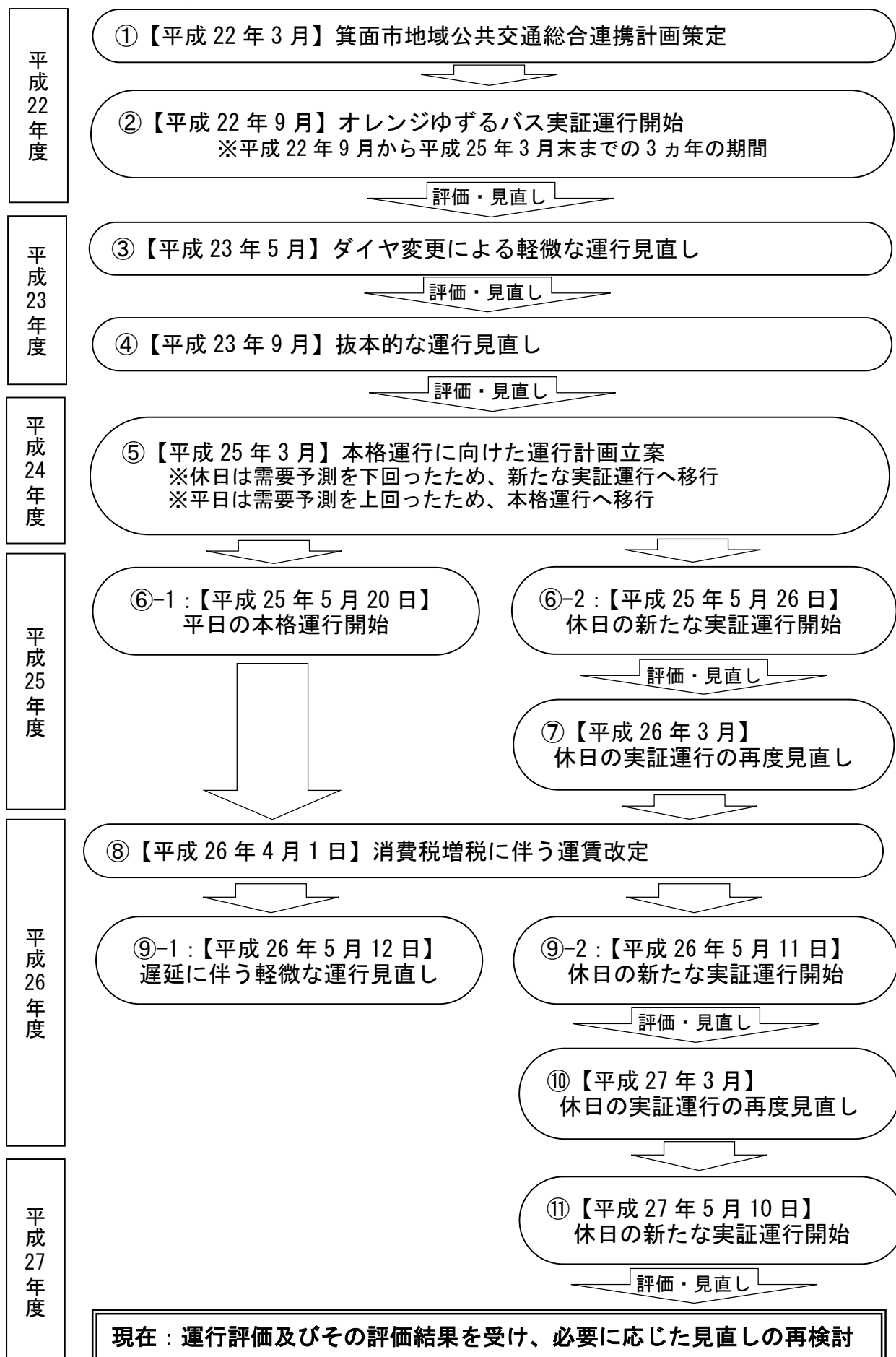
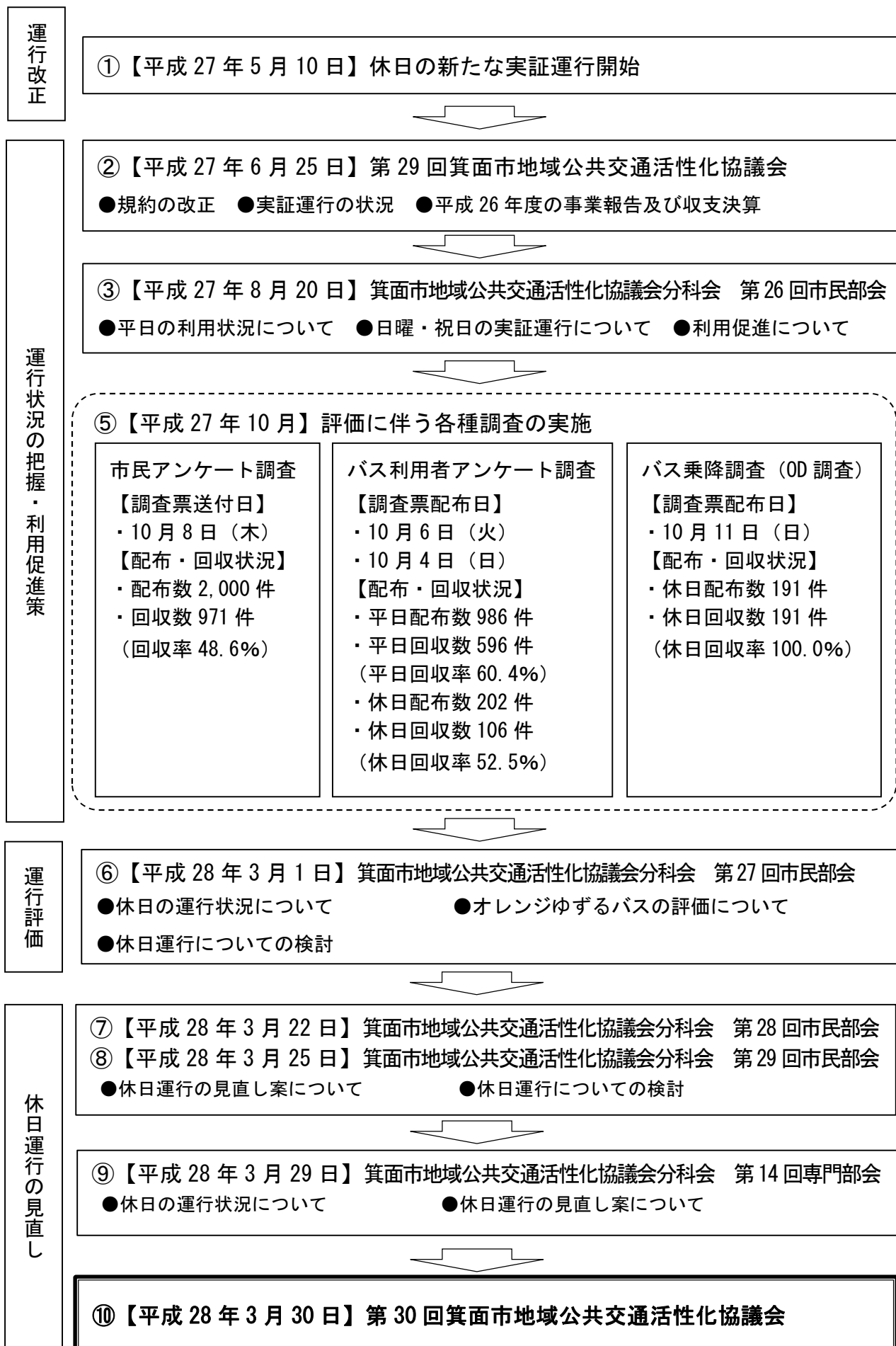


議題（2）休日運行について

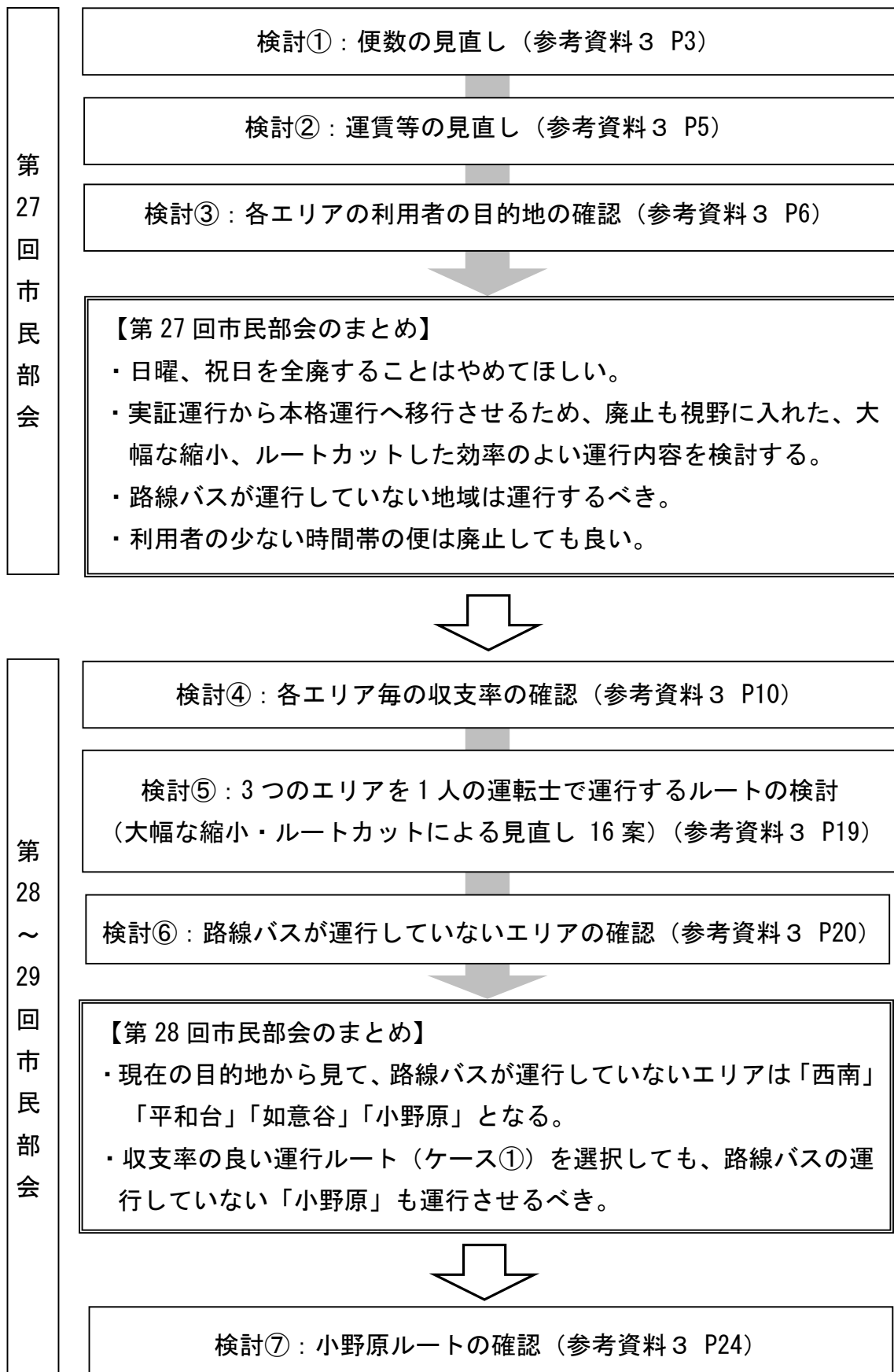
1. オレンジゆずるバス休日運行の経過について



2. 分科会等の開催結果について



3. 見直しの検討経過と結果



4. 休日限定の本格運行（素案）について

（1）本格運行について

①運行ルート

- ・日曜・祝日に路線バスが運行していないエリアを残すとともに、収支率を向上させるルートに見直した。

【ルート設定】

西部ルート：平和台・如意谷・西南エリアを結んだルート

東部ルート：小野原～かやの中央～粟生団地を循環するルート

②運行計画

	便数	運行距離	運行時間 <small>(概ね)</small>	利用者予測	収支率予測
西部ルート	5 便	95.8km	9 時～13 時 ・ 14 時～18 時	105 人	43.9%
東部ルート	5 便	94.9km	9 時～13 時 ・ 14 時～17 時	77 人	34.1%
合計		190.7km	9 時～13 時 ・ 14 時～18 時	182 人	39.2%

③運賃

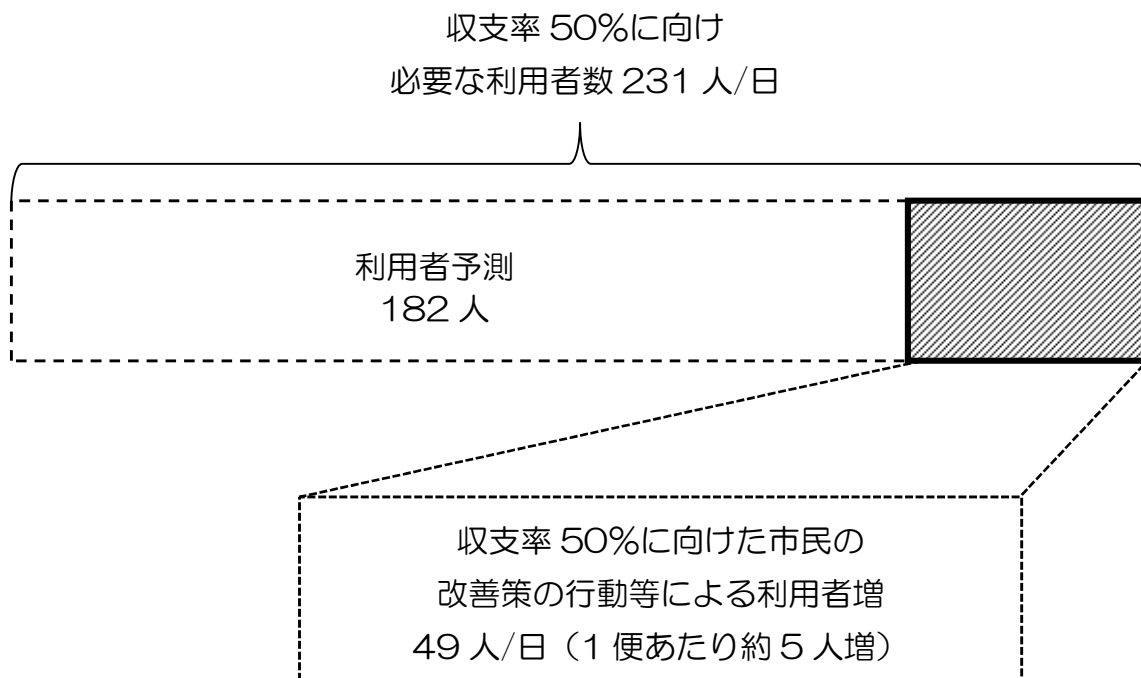
運賃体系については、平日と統一した運用を行う。

【利用促進計画】

見直し後の収支率は、39.2%と推測され、現行ルートにおける収支率 31.7%を上回るが、見直し基準の目標値である 50%には届かない。

見直し後、休日運行は、本格運行へと移行するため、運行の継続的な実施のためにも収支率 50%を超えることを目標に、利用者数増加のために、市民が主体的に利用者数増加に向けた改善策の行動を起こすこととする。

【見直し後における市民の改善策の行動等による利用者増について】



(2) 評価・見直し基準について

評価・見直し基準については、現行のままとする。

表. オレンジゆずるバス運行の評価指標

評価指標	目標値	指標設定の意味
認知率	1年目 50%以上 3年目以降 80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通を利用するための情報が十分かどうかを把握する。 情報提供のあり方などを評価する場合に用いる。
利用率	40%以上	<ul style="list-style-type: none"> 地区における公共交通のサービスのあり方を数値として把握する。 利用促進策の取り組み成果などを評価する場合に用いる。
収支率	50%以上	<ul style="list-style-type: none"> 運行の見直し等を行うための最も基本的な指標。 採算性・効率性とサービス提供の妥当性などを数値として把握する 運行計画（運行日、便数、運賃など）を評価する場合に用いる。

資料：箕面市地域公共交通総合連携計画（平成22年3月）

表. オレンジゆずるバス運行の見直し基準

項目		見直し基準値
運賃等の見直し	収支率 (運賃収入+その他収入)	65%以上 (向上)
		50%以下 (改善)
便数の見直し	バス1便あたりの利用者数	27人以上 (向上)
		15人以下 (改善)
ルート・バス停の見直し	バス停1日あたりの利用者数	50人以上 (向上)
		9人以下 (改善)

資料：箕面市地域公共交通総合連携計画（平成22年3月）

素案

2つのルート

1日5便の運行

